













慈<sup>い</sup>善<sup>ぜん</sup>券<sup>けん</sup>ニ付謹告

顧ふに二十年は二昔なり。決して短しと言ふべからず。其間の慈善金三十有餘萬圓は、未だ必ずしも少額なりと斷すべからず。少なくとも、我等の爲す所としては、最大限度の努力にして、同時に愛用各位の最上高貴の行爲たりしを信するもの也。

然も二十年の經過に於て、時勢は幾變轉せり。國民の思想行爲も亦根蒂より改められたるものあり。隨つて慈善の行爲、救濟の事業も亦其精神と方法とに於て、新なるものあらむとす。之を我等の臨める當面の事實より云へば、我等は當然社會の爲すべき事業の發達を誘致し、暫く假りの補足を爲したるに過ぎざるのみ。今や社會は時代の推移と共に、各般の社會事業を企畫經營し「救貧」より「防貧」の域に進めり。我等の爲す消極的慈善は、最早現在に適切ならざるの觀あり。

是に於て我等は如上の趨勢に鑑み、又從來の顧問役たりし斯界専門家の見解にも聴き、「ライオン齒磨慈善券」は實に第廿回即ち大正十年十二月限に指定したる慈善券を以て斷然廢止する、ここに決定せり。謹んで之を各位、並に江湖の各位、慈善團體に告ぐると共に、今日まで、我等の微衷を賛け、この聖業の爲めに盡瘁するの光榮を得しめ給ひし博大なる大方の好意を感謝せざる能はざる也。

愛用各位！滿天下の各位！ライオン齒磨慈善券は、之を打ち切りたりと雖も、遠からず我等は新なる世界に於て更に有益なる事業に働き得るの幸福を發見する機會あるを信するもの也。

追而前述に従ひ、第十九回並に第二十回の慈善券殘餘金は從來の方法にて喜捨可致候

一、金壹萬八千五百八拾貳錢九厘

自大正八年壹月滿壹ケ年間ライオン齒磨(小中袋入)但至同拾貳月滿壹ケ年間壹千八百拾五萬五千八百貳拾九袋賣捌に付此の慈善券總金額拾貳萬貳千參百五十參袋引換金額

差引金壹萬壹千六百參拾參圓四拾七錢六厘

內金壹千六百五拾六圓九拾壹錢五厘

差引換末濟 金九千九百七拾六圓五拾六錢壹厘

右金額左記之通り分配致候也

大  
正

拾月

ライオン齒磨本舗

東京・大阪・名古屋

會社  
株式  
小林  
商店

會社  
株式  
小林  
商店